

証券コード 3591



第72期 第2四半期
株 主 通 信

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日

令和元年9月に発生した台風15号、および10月に発生した台風19号の被害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆さまに心よりお悔やみを申し上げます。また、被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

当社は、2019年11月1日に、創立70周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆さまからの温かいご支援、ご愛顧の賜物と心より感謝を申し上げます。

創業者である塚本幸一が、戦後間もない混乱期の日本において、女性の洋装下着文化の創造・普及に取り組んで以来、当社は「世の女性に美しくなって貰うことによって、広く社会に寄与する」という目標に向かって、今日まで歩んでまいりました。これからも、100年を超えて社会から存続を期待され続ける企業であるために、不断の前進を続け、すべてのステークホルダーの皆さまの期待にお応えできるように努めてまいります。

こうした中、当社グループでは、2019年4月から新たな3か年の中期経営計画をスタートさせ、大いなる将来に向けて新たな一歩を踏み出しました。成長軌道への回帰を目指す(株)ワコールでは、3DボディスキャナーやAI(人工知能)を導入した次世代のインナーウェアショップをオープンさせるなど、イノベーションによる顧客との関係の再構築に取り組んでおります。

海外では、各国においてEコマースでの成長機会の創出と競争力の強化に向けた取り組みを進めており、その一環として、「LIVELY(ライブリー)」のブランド名称で女性用インナーウェア等の商品企画と小売販売を行っている、米国のIntimates Online, Inc.の発行済株式のすべてを取得し、完全子会社化しました。(詳細は4ページをご覧ください)

他方、国内子会社においては、事業の選択と集中を進めることで、安定して利益を創出できる事業体制への移行を進めております。

この3か年は、成長回帰を実現するとともに、一層強力で構造改革や事業効率を高めるための取り組みを推し進め、企業価値の持続的向上に全力を尽くします。株主・投資家の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年12月



株式会社ワコールホールディングス

代表取締役社長

安原弘展

ご寄付についての報告

ワコールグループは乳がん早期発見・早期診断・早期治療を推進する「ピンクリボン活動」を支援しており、その一環として、公益財団法人日本対がん協会「ほほえみ基金」へ寄付を行っております。

2005年からは株主さまにもご参加いただける支援活動として、ご優待としてお送りした商品券「ワコールエッセンスチェック」をご寄付としてご送付いただいております。

株主さまからお寄せいただいた2019年度中間期のご寄付は次のとおりです。

※なお、当社グループでは、株主の皆さまからご寄付いただきました上記の金額と同額を、日本対がん協会に寄付しております。(マッチングギフト方式)

寄付先

公益財団法人
日本対がん協会
「ほほえみ基金」

株主さまからのご寄付件数および金額

2019年4月～2019年9月末

336件 | 846,500円

ご賛同いただきました株主の皆さまには、心より感謝を申し上げます。

当第2四半期の業績概況

当第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)の売上高は、前年同期並みとなりました。国内事業は、消費税増税前の駆け込み需要も寄与し、増収となりました。海外事業は、「インティメイト・オンライン社(以下、IO社)」の新規連結の効果があったものの、米国の既存事業やタイの材料会社が苦戦したことに加え、為替換算による押し下げの影響もあり、減収となりました。ピーチ・ジョン事業は前年同期並み、その他は減収となりました。

営業利益は、前年同期に比べ6%の増加となりました。国内事業は、増収効果によって増益となりました。海外事業は、米国の既存事業の減収に加えて、「IO社」の営業損失を取り込んだことと、買収に係る一時費用を計上したことが影響し、減益となりました。ピーチ・ジョン事業は中国事業の苦戦が響いて減益となりましたが、その他は、ルシアン の営業損失幅が縮小したことが寄与し、増益となりました。

税引前四半期純利益は、前年同期に比べ43%減少しました。有価証券・投資評価損益について、前年同期は評価益として56.6億円を計上していましたが、当期は評価損として9.6億円を計上したことが影響しています。(当社は米国会計基準を採用しており、当社および連結子会社が保有する持分証券を公正価値で評価し、期初からの変動を「その他の収益・費用」で計上しています)

▶▶▶ 売上高	1,014億50百万円 (前年同期比 0.4%減)
▶▶▶ 営業利益	94億95百万円 (前年同期比 5.6%増)
▶▶▶ 税引前四半期純利益	93億26百万円 (前年同期比 42.8%減)
▶▶▶ 当社株主に属する四半期純利益	66億68百万円 (前年同期比 41.5%減)

当第2四半期連結累計期間の主要な為替換算レート

■ 1米ドル	= 108.63円	■ 1中国元	= 16.20円
■ 1英ポンド	= 136.73円		

通期の連結業績予想
および配当の状況

通期の連結業績予想については、2019年5月15日に公表した連結業績予想から変更ありません。また、持分証券の評価損益による変動影響は、連結業績予想には織り込んでおりません。

売上高	営業利益	税引前当期純利益	当社株主に 属する当期純利益	配当金
▶▶▶ 2,000億円 (前年比 3.0%増)	▶▶▶ 110億円 (前年比 125.5%増)	▶▶▶ 120億円 (前年比 444.7%増)	▶▶▶ 90億円 (前年比 一)	▶▶▶ 1株当たり 中間配当金 40円(※) 期末配当金 40円(予想)

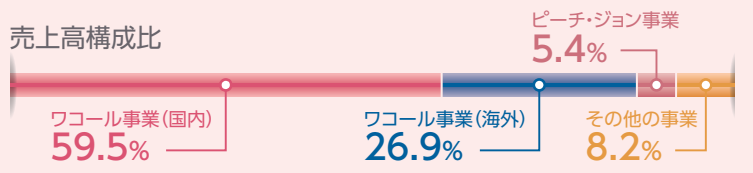
(※) 中間配当金(基準日: 2019年9月30日)は2019年12月3日よりお支払いたします。
中間配当金は1株当たり40円(普通配当36円・記念配当4円)です。

◆ 詳しくは当社ホームページより 「2020年3月期 第2四半期決算短信」をご覧ください。

URL https://www.wacoalholdings.jp/ir/financial_results.html

オペレーティング・セグメントの営業概況

売上高構成比



ワコール事業(国内)

売上高	603億 60百万円	営業利益	62億 88百万円
	前年同期比 3.0%増		前年同期比 26.7%増

当該セグメントの売上高は、消費税増税前の駆け込み需要が寄与し、前年同期に比べ3%の増加、営業利益は27%の増加となりました。

【ワコール】

ワコールの売上高は、前年同期に比べ5%の増加となりました。四半期単位では、第1四半期連結会計期間の売上高が、前年同期比1%の増加にとどまったのに対し、当第2四半期連結会計期間では、7月に天候不順の影響を受け苦戦したものの、増税前の駆け込み需要も寄与したことで、9%の増加となりました。卸売事業は、ワコールブランドで展開する睡眠時専用ブラジャー「ナイトアップブラ」やウイングブランドで量販店に向けて展開する「シンクログラ」などが好調に推移したほか、定番商品への需要が拡大し、増収となりました。小売事業は、造形性を高めたブラジャー「グラマリッチ」が好調を維持したことに加え、来店者数の増加も寄与し、同じく増収となりました。WEB事業も、自社ECでの売上が好調に推移したことで、増収を達成しています。営業利益は、前年同期に比べ25%の増加となりました。オムニチャネルの構築に係るIT関連費用は増加しましたが、主力事業部の増収効果や売上利益率の改善に加え、一部広告宣伝費の投入を第3四半期以降に延期したことで、大幅な増益となりました。

ワコール事業(海外)

売上高	272億 53百万円	営業利益	30億 23百万円
	前年同期比 5.4%減		前年同期比 21.3%減

邦貨換算後の当該セグメントの売上高は、米国の既存事業やタイの材料会社が苦戦したことに加え、為替換算による影響もあり、前年同期に比べ5%の減少となりました。営業利益は、下記の主要3子会社の減益が響き、前年同期に比べ21%の減少となりました。

【ワコールインターナショナル(米国)】

ワコールインターナショナル(米国)の現地通貨ベースの売上高は、前年同期に比べ2%減少しましたが、為替変動の影響もあり、邦貨換算ベースでは3%の減少となりました。新しく連結対象となった「IO社」の8月以降の売上高3.5億円を取り込んだ効果があったものの、百貨店(実店舗)の在庫調整が影響したことにより既存事業が苦戦した結果、減収となりました。営業利益は、既存事業の減収影響に加え、「IO社」の営業損失(△2.0億円)や、買収に係る一時的な費用を計上したことから、前年同期に比べ40%の大幅な減少となりました。

【ワコールヨーロッパ】

ワコールヨーロッパの現地通貨ベースの売上高は、前年同期に比べ2%の増加となりましたが、為替変動の影響により、邦貨換算ベースでは6%の

減少となりました。多様なサイズニーズに応える「Fantasie(ファンタジー)」「felomi(エロミ)」「Freya(フレヤ)」の各ブランドの展開強化に取り組んだ結果、百貨店、専門店、他社ECともに、第2四半期連結会計期間の売上が伸長しました。営業利益は、スペインの販売体制強化に伴う人件費の増加に加え、自社ECサイトでの売上拡大に向けた宣伝活動を進めていることから、前年同期に比べ15%の減少となりました。

【中国ワコール】

中国ワコールの現地通貨ベースの売上高は、前年同期に比べ3%の増加となりましたが、為替変動の影響により、邦貨換算ベースでは3%の減少となりました。ECモール事業者とのアライアンス強化や実需期の販売プロモーションの展開によって、EC売上は高い成長を維持したものの、一部の百貨店の閉店等が響きました。営業利益は、EC売上の比率が高まったことで、売上利益率の改善が進んだものの、広告宣伝費の増加や倉庫移転に伴う一時的な費用を計上したことにより、14%の減少となりました。

ピーチ・ジョン事業

売上高	54億 66百万円	営業利益	96百万円
	前年同期比 0.1%減		前年同期比 47.3%減

当該セグメントの売上高は、前年同期並みとなりました。国内では、事業効率の改善に向けて、不採算店の一部撤退を実行しつつ、セール販売の縮小に努めました。これらの結果、通販事業は減収に終わりましたが、店舗事業は、来客数増加が寄与したこともあり増収となりました。

営業利益は、国内はセール販売の構成比率を抑えたことで売上利益率を改善したほか、販管費の削減にも努めましたが、中国事業の営業損失の影響もあり、前年同期に比べ47%の減少となりました。

その他の事業

売上高	83億 71百万円	営業利益	88百万円
	前年同期比 6.4%減		前年同期比 —

当該セグメントの売上高は、前年同期に比べ6%の減少、営業利益は前年同期に比べ、増加しました。

【ルシアン】

ルシアンは、前年同期に比べ7%の減少となりました。収益重視の観点から見直しを進めている服飾生地やレース等の素材事業は減収となった反面、量販店向けPB製品の販売に回復が見られたことから製品事業は増収を確保しました。営業損益は、販管費の削減などが寄与し、前年同期から営業損失幅を縮小しました。

【七彩】

七彩の売上高は、前年同期に百貨店の大型改装工事があったことの裏返しから、前年同期に比べ8%の減収となりました。営業利益は、減収の影響により、前年同期に比べ8%の減少となりました。

Wacoal News

早いスピードで大きく変化するEコマース市場において、さらなる成長を。
「LIVELY」とともにチャンスをつかむ。



当社は2019年7月、米国にある連結子会社のワコールインターナショナルを通じ、「LIVELY (ライブリー)」のブランド名称で女性用インナーウェア等の商品企画と小売販売を行う米国の Intimates Online, Inc. (本社:米国ニューヨーク州)の発行済株式のすべてを取得しました。世界中でEコマース市場の拡大が続く中、近年、米国ではDNVB※が急速に躍進しています。このDNVBの一つである「LIVELY」ブランドを当社グループに組み込むことで、従来の中心顧客とは異なるミレニアル世代の顧客を獲得し、Eコマース売上やデジタルマーケティング手法を通して将来の成長を取り込みます。また、当社グループが有する商品の企画開発力や製造工場、海外の事業インフラ等を活用することで、同ブランドの成長スピードをより一層高めていきます。

※デジタル・ネイティブ・ヴァーティカル・ブランドの略。自社で企画開発を行い、製造品質にも責任を持ち、自社のEコマースチャンネルで直販するブランドのこと。垂直的にすべてのバリューチェーンに責任を担い、顧客情報を直接保有するのが特徴。

Topics



夜もワコールで、眠りをもっとこちよく。
寝るとき用ブラ&パジャマが注目。

注目を集める「睡眠」市場に向けて、ワコールは日々の眠りをこちよくランクアップさせるブラ&パジャマを提案。寝ている間のバストを重力から守る『寝るとき用ブラ』は、TVCFで話題の『ナイトアップブラ』をはじめ「パルファージュ」や「サルート」「ウイング」「アンフィ」「ウンナナクール」などでも展開。睡眠時のからだの特性研究から生まれた「睡眠科学」からは『寝返りを考えたパジャマ』や『睡眠姿勢を考えたパジャマ』など、睡眠中の“動きのこちよさ”を追求したパジャマをラインアップ。睡眠ブームを追い風に、総合力で大きなムーブメントを起こしました。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2019年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
【資産の部】		
流動資産	102,429	108,016
有形固定資産	52,888	53,270
その他の資産	141,357	120,481
資産合計	296,674	281,767
【負債の部】		
流動負債	49,153	43,862
固定負債	28,393	16,761
負債合計	77,546	60,623
【資本の部】		
資本金	13,260	13,260
資本剰余金	29,828	29,807
利益剰余金	191,006	193,139
その他の包括損益累計額	△ 6,909	△ 4,128
為替換算調整勘定	△ 1,641	1,551
年金債務調整勘定	△ 5,268	△ 5,679
自己株式	△ 12,731	△ 15,584
株主資本合計	214,454	216,494
非支配持分	4,674	4,650
資本合計	219,128	221,144
負債及び資本合計	296,674	281,767

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
売上高	101,450	101,815
営業費用	91,955	92,821
営業利益	9,495	8,994
その他の収益・費用	△ 169	7,317
税引前四半期純利益	9,326	16,311
法人税等	2,922	5,185
持分法による投資損益調整前 四半期純利益	6,404	11,126
持分法による投資損益	345	346
四半期純利益	6,749	11,472
非支配持分帰属損益	△ 81	△ 81
当社株主に帰属する四半期純利益	6,668	11,391

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	7,738	7,974
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 6,003	△ 2,703
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 5,777	△ 5,978
為替変動による現金及び 現金同等物への影響額	△ 552	656
現金及び現金同等物の 増減額	△ 4,594	△ 51
現金及び現金同等物の 期首残高	30,133	29,487
現金及び現金同等物の 四半期末残高	25,539	29,436

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

株式の状況

Stock Information

(2019年9月30日現在)

株式および株主数

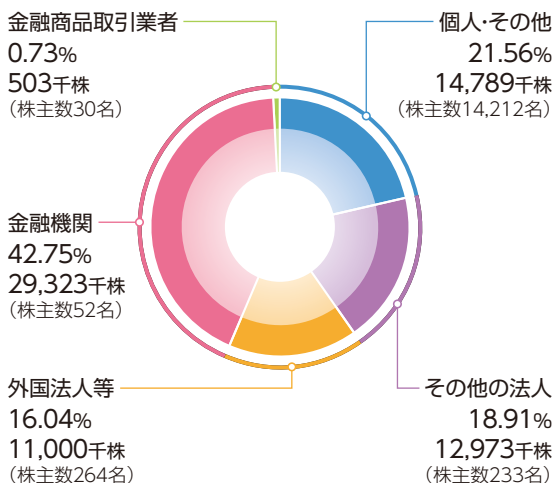
発行済株式数	68,589,042株
株主数	14,791名

大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,270	5.11
株式会社三菱UFJ銀行	3,195	4.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,069	4.80
明治安田生命保険相互会社	3,050	4.77
株式会社京都銀行	2,352	3.68
日本生命保険相互会社	1,836	2.87
株式会社滋賀銀行	1,823	2.85
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,525	2.38
第一生命保険株式会社	1,366	2.13
旭化成株式会社	1,241	1.94

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式4,580千株を控除して計算しております。

株式分布状況



(注) 1. 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 個人・その他は自己株式を含んでおります。

会社概要

Corporate Profile

(2019年9月30日現在)

社名	株式会社ワコールホールディングス	
創業	1946年(昭和21年)6月15日	
創立	1949年(昭和24年)11月1日	
資本金	132億6,011万584円	
従業員数	20,865名(連結ベース)	
本社	京都市南区吉祥院中島町29番地	

主要グループ会社

国内連結会社		
(株)ワコール	(株)ランジェノエル	(株)トリーカ
(株)ルシアン	(株)Ai	ワコール流通(株)
(株)ピーチ・ジョン	九州ワコール製造(株)	(株)七彩
(株)ウンナナワール	北陸ワコール縫製(株)	ワコールサービス(株)
(株)ワコールミニネット	新潟ワコール縫製(株)	(株)ワコールキャリアサービス

海外連結会社		
米国ワコール	ワコール(中国)時装	ベトナムワコール
ワコールインターナショナル(米国)	大連ワコール時装	フィリピンワコール
ワコールカナダ	廣東ワコール	ワコールシンガポール
ワコールドミニカーナ	ホンコンワコール	Aテックテキスタイル(タイ)
ワコールヨーロッパ(英国)	ワコールインターナショナルホンコン	Gテックマテリアル(タイ)

国内関連会社		
(株)ハウスオブローゼ		

海外関連会社		
台湾ワコール	インドネシアワコール	ワコールマレーシア
タイワコール	新栄ワコール(韓国)	

第72期の経営体制

取締役・監査役

代表取締役会長	塚本 能交	監査役	中村 友紀
代表取締役社長	安原 弘展	監査役	廣島 清隆
取締役副社長	山口 雅史	監査役(社外監査役)	白井 弘
常務取締役	宮城 晃	監査役(社外監査役)	浜本 光浩
取締役(社外取締役)	黛 まどか	監査役(社外監査役)	島田 稔
取締役(社外取締役)	齋藤 茂		
取締役(社外取締役)	岩井 恒彦		

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日	上場証券取引所	東京証券取引所
定時株主総会	6月	証券コード	3591
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.wacoalholdings.jp/ir (ただし、事故、その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3-6-3 ・Tel 0120-094-777 (通話料無料) ご利用時間：土日祝祭日除く平日9時00分～17時00分 ・インターネットアドレス https://www.tr.mufg.jp/daikou/		

株式に関するお手続きについて

	お手続き内容	お問い合わせ窓口
<ul style="list-style-type: none"> 氏名・住所の変更 単元未満株式の買取および買増請求 配当金の振込先指定 その他株式に関するお問い合わせ 	証券会社の口座で株式をご所有の株主さま	お取引の証券会社
	特別口座で株式をご所有の株主さま	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> 未受領の配当金に関するお問い合わせ 郵便物についてのお問い合わせおよび再送付のご依頼 	すべての株主さま	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

株主さまご優待について

ご優待の内容	基準日	発送時期
①下記通信販売の優待割引 (事前の登録手続き要) ワコール通信販売カタログ『LOVE BODY』 インターネット通信販売『ワコールウェブストア』 100株以上ご所有の株主さま 20%OFF(※1)	3月31日	秋号 (8月下旬) より年4回送付
	9月30日	春号 (翌年2月) より年2回送付
②ワコールエッセンスチェック (ワコール商品券) 500株以上1,500株未満をご所有の株主さま 3,000円分 1,500株以上ご所有の株主さま 5,000円分 3年以上継続して保有(※2)していただいている株主さまに対しては、上記金額分をそれぞれ1,000円分を加算してお送りします。	3月31日	6月末
	9月30日	12月初旬

※1 割引が適用されるご購入金額の上限額(割引適用前)は、年額100万円(税込)(7月1日～翌年6月末日の累計)となります。

なお、中間期で株主さまになられた場合も、適用期間は翌年6月末日までとなります。

※2 3年以上の継続保有とは直近7回のすべての基準日(9月30日および3月31日)において、同一株主番号で株主名簿に保有株式数(基準)が記載されていることをいいます。

配当金のお受け取りについて

配当金は口座振込でも受け取ることができます。

口座振込をご利用いただけますと、配当金の支払開始日にご指定の口座に振り込まれます。お手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。



ピンクリボン活動(乳がん早期発見)をワコールは支援しています。

株式会社ワコールホールディングス